

ごあいさつ

福島東高等学校同窓会会長

金子 與志人



毎年一回会報に掲載させていただいているので、この場をお借りしてですが、新年のご挨拶として本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

また、日頃は同窓会活動にご理解いただいた上でご協力賜っていますこと御礼申し上げます。

同窓会は、同窓生同士が当時を振り返ったり卒業後の憩いの場として存在しますが、も一つ大きな役割は母校・後輩への後援などです。毎年卒業生を輩出していきますが総会等などではなかなか顔を合わすことが出来

ておりません。可能な範囲で結構ですので母校・後輩の為に同窓会へのご協力をお願いいたします。

冒頭のご挨拶はここまでいたしましたし、これからは福島県立福島東高等学校を改めて私なりに理解を深めたいと思います。在校生時代に目にはしていませんでしたが、意味や思いなどはあまり気にしていなかった校訓がホームページを開くと一番上に書いてあります。皆さんは校訓を覚えていらっしゃるか？

創造・協調・躍進の三つです。失礼ながら私自身も見てから懐かしいと感じてしまい、一つの単語も記憶に残っていませんでした。

創造： それまでなかったものを初めてつくり出すこと。

神が万物をつくること。

協調： 力を合わせて事をなすこと。利害の対立するものが、力を合わせて事にあたること。

躍進： めざましく進歩・発展すること。勢いよく進出すること。

(以上の意味は大辞林第三版からの引用です。)

いかがでしょうか？この校訓に込められた思いを感じとっていただけたかと思えます。

それぞれの単語は特に難しいものではありません。どちらかと言えば普段の生活においても聞き慣れた単語だと思えます。

しかし、敢えて口に出したり文字として書いたり意味を調べてみると福島東高創立から未来への思いや目指す姿などを感じた気がします。

そして創立から三十七年が経ちますが、この校訓への思いと意味は薄れることなくその時代ごとに受け継がれていると思

ます。

その校訓を基に「文武両道」があるのではないのでしょうか。学校ホームページを引用しますと、

文武両道：東高は一人ひとりの生徒が「文」と「武」の両面で活躍し、確かな実績を残すことができるような指導・支援を行います。

「文」：進路実現のために一人ひとりの能力を引き出し開花させる。そのシステムが東高にある。

「武」：心技体を鍛え、最高の充実感と達成感を味わう、その光り輝くステージが東高にある。

東高の特色「文武両道」が達成できる五つのポイント

メインは授業 生徒一人ひとりに合った学力向上システム 三年次は全職員がバックアップ 充実した進路指導 盛んな部活動 以上が掲載してあります。

長々と書きましたが、この様に生徒が学生生活を送るには最高の環境と先生方の熱い思いがあります。

そこで、同窓会としてどのようなことをお手伝い出来るかは、多くの同窓生の皆様の経験と知恵をいただきたいのです。

今年と同窓会総会開催の年ではないので公式的に皆様とお会いする機会はありませんが、来年の総会におきましては一人でも多くの同窓生の方々から叱咤激励のお言葉を頂戴できれば同窓会役員一同気持ちを引き締め活動に情勢を注ぎたいと思っております。どうぞよろしくお願

いします。最後に、同窓会活動に大変ご理解を頂いている吉田校長先生を始めとする教職員の皆様と同窓会事務局として取りまとめを行っていただいている同窓生の皆様方に心から感謝申し上げます。今後同窓会活動への参加を

宜しくお願いたします。



「やり抜く力を育てる学校」

福島東高等学校長 吉田豊彦



本校は、昭和五十五年の開校以来、諸先輩方から引き継がれる志により、輝かしい歴史を刻んでまいりました。同窓生の皆様をはじめ、先輩教職員の皆様、地域の皆様のご努力に心より敬意を表します。

平成二十七年末の卒業生総数は一一、六一一名にのぼり、金子與志人会長をはじめとする同窓会の皆様には、物心両面で大きな支援を受けています。吹奏楽部や合唱部、ダンス部、美術部の定期演奏会・展覧会に補助をいただき、また、全国大会に出場する生徒に対しても、平成二十七年度は陸上競技部、弓道部、山岳部、放送委員会、合唱部が、平成二十八年度は美術部と弓道部が、激励金をいただいております。体育施設・ユニフォーム代の補助や公開文化祭の後援等、ご支援は多岐に渡っており、福島市役所に勤務する同

ある「文武両道」は、キャリア発達の基盤となる生徒の能力を高め、生徒の可能性を伸ばす学校となっております。

窓生の皆様からも、毎年ご支援いただいております。本校の教育活動が円滑に行われるのもこれらのご支援の賜です。人的にも、キャリアガイダンスの一環として第一学年生徒に対して開催されている「さまざまな職業人に聞く」においては、今年度（十月二十一日（金）実施）は、一期生から二十八期生までの七名の先輩方が、自らの仕事や働くことの意味を熱く語ってくださいました。職業も、教育、医療、行政、公安、IT企業、会社経営、建築と多岐に渡っており、先輩方の多様な活躍は、後輩のキャリア形成に大いに役立っております。平成二十八年度、本校は、第三十五・三十六・三十七期生、八百四十一名（男五百十六名、六一・四％、女三百二十五名、三八・六％）、教職員総数六十三名でスタートしました。本校開設期に「どの高校よりも生徒一人ひとりを大事にします。」と生徒募集に当たった先輩教職員の地域への約束は、学習指導・受験指導及び部活動等の両面に引き継がれております。

開校以来本校の教育の基軸で

学校行事においても「文武両道」が貫かれております。春の福島高校との野球定期戦「桜梅戦」は、新入生が東高生であることを実感する最初の瞬間です。

学習活動においては、本校は現在、四十五分七校時を骨格とする教育課程を組み、入学当初からのきめ細かな学習指導、大学入試を突破するために必要十分な質・量の課外学習を行い、三年次後半には、すべての教員が三年生の進路実現のために個別指導を徹底しております。今後とも、大学入学後も生きる力の育成に努めつつ、現役国公立大学合格者数にこだわらぬ姿勢を維持・発展させながら、本校の教育を一層充実させてゆく所存です。部活動においては、午後四時から七時の練習時間を確保し、先生・生徒が共に汗を流しています。今年度は、全国大会出場の数こそ少なかったものの、陸上競技部（男子駅伝を含む）、水泳部、ソフトボール部、弓道部、サッカー部、テニス部、山岳部、合唱部等が東北大会に進出しています。野球部も秋季地区大会で優勝するなど、団体競技は押しなべてレベルの高い戦いをしており、柔道はじめ個人種目でも良い成績を収めています。来年は東北インターハイの年であり、一層気合いが入っているところです。

いって一層具体的に、次期学習指導要領や新テスト等に対応するための準備を進めてまいります。「文武両道」を標榜する学校は数多くあります。しかしながら、本校の学習指導、部活動指導の水準は、全体として高いレベルを維持しており、充実した課外活動と日々の学びを両立させることで、生徒には、「物事をやり抜く力」が確実に育っているのではないかと考える今日この頃です。

文武を両立させている本校生は、相変わらずとても忙しい。そのような本校生の状況を、生徒会誌「まほろば」第三十六号の編集後記子は、こう綴っています。『そんな東高生だからこそ忍耐強かったり、努力を怠らなかつたり、他人を思いやれる人が多いのだと思います。高校に入って真つ先に思ったのが「意味のないいざこざがないことでした。皆強い芯を持っていて一緒にいて心持の良い人達ばかりです。』

教職員一同、このような生徒のために全力を傾注してまいります。



福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]
第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

[目的および事業]
第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。
1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

[会 員]
第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退職校者で総会に承認された者とする。

[役 員]
第5条 本会に次の役員をおく。
1. 会 長 1 名
2. 副会長 4 名
3. 理 事 若干名
4. 監 事 3 名
5. 幹 事 若干名
第6条 役員は次のとおりとする。

1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。
2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。

第7条 役員は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第8条 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]
第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。

[総 会]
第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。
1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事で構成される役員会に委任することができる。

[理事会]
第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

[事務局]
第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

[会 計]
第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。

第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。

第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。
第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附 則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。この規約は平成17年2月26日から改正する。

平成27年度 歳入歳出決算書

歳入金額 4,985,211円
歳出金額 4,107,089円
差引残額 878,122円

1. 歳 入 ▲は減少 単位：円

Table with 7 columns: 項目, 当初予算額, 繰入額, 現計予算額, 決算額, 増 減, 備 考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会積立金, 特別会計基金, 東高応援基金, 合計.

2. 歳 出

Table with 7 columns: 項目(科目), 当初予算額, 流用額, 現計予算額, 決算額, 残 額, 備 考. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 名簿管理費, 通信費, 会報郵送料, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援事業, 公開文化祭後援費, 特別会計, 各種事業積立, 50周年事業積立, 特別会計積立, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

平成28年度 歳入歳出予算書(案)

歳入金額 5,100,000円
歳出金額 5,100,000円
差引残額 0円

1. 歳 入 ▲は減少 単位：円

Table with 7 columns: 項目, 28年度予算額, 27年度予算額, 比較増減額, 備 考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会積立金, 特別会計基金, 東高応援基金, 合計.

2. 歳 出

Table with 7 columns: 項目(科目), 28年度予算額, 27年度決算額, 比較増減額, 備 考. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 名簿管理費, 通信費, 会報郵送料, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援事業, 公開文化祭後援費, 特別会計, 各種事業積立, 50周年事業積立, 特別会計積立, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

「東高応援基金」 協賛者名

(敬称略)

()は卒業期、()は旧姓
○「東高応援基金」について

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いいたします。同封した振込み用紙にてお願いいたします。その際、おわかりになっていけば、卒業年度もしくは何期かを記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東桜会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

- 尾形幸男(1)三浦信彦(1)西山尚利(1)菊池浩二(1)佐戸川政実(1)吹山太(1)渡辺真一(1)赤井義則(1)大平睦生(1)齋藤明(1)久能靖(1)目黒幹浩(2)阿部真人(2)遊佐博昭(2)渡辺伸一(2)齋藤正機(2)遠藤勝利(2)大槻幹郎(2)渡辺武浩(2)小野浩樹(2)
- 武田将英(2)永井貴博(2)鈴木達也(2)相原徹(3)安藤武仁(3)尾形典良(3)金子與志人(3)柴田淳史(3)鈴木友彦(3)紺野信幸(3)平井喜弘(3)小林雄(3)佐久間真一(3)齋藤良司(3)齋藤孝一(3)大内則和(3)蒲倉達也(3)佐藤和生(3)山田昌信(3)佐久間徹(3)高根功幸(3)森進一(3)寺島健吾(3)西條正美(3)紺野勝弘(3)島良七(3)泉田太郎(3)齋藤文孝(3)坂巻幸司(3)下島仁(3)河野耀祐(4)丹治仁(4)宗像和人(4)氏家祥市(4)高橋勝弘(4)古閑邦彦(4)佐藤真一(4)吉川裕(4)峯智和(4)上原子祐司(4)永澤憲一(5)青木康博(5)渡辺伸克(5)菅田勝彦(5)三宅一秀(5)尾形隆史(5)小竹智行(5)佐藤芳幸(5)手塚健一(5)高野秀和(5)佐藤忠之(5)伊藤隆(5)渡辺裕哉(5)黒津健(5)菅野晃弘(5)小松弘人(6)遠藤直人(6)山川毅(6)桂山洋幸(6)大槻一博(6)鈴木一義(6)佐々木崇(7)六戸敢一(7)渡部泰史(7)岡崎道浩(7)樺山誠治(7)織井健次(7)齋藤祐一(7)飯沼剛(7)岩見宗弘(8)安齋晃(8)石原英明(8)日向正仁(8)佐藤秀和(8)関克典(8)土谷高志(8)橋本哲也(8)佐久間潤(8)齋藤晃一(8)湯田匡史(8)服部博(9)奥山孝幸(9)佐藤浩規(9)後藤正治(9)立花純孝(9)渡辺剛(9)大槻進也(9)鈴木健一(9)川瀬哲雄(9)鈴木勇人(9)渡邊吉城(9)宮口剛(10)加藤芳史(10)渡邊賢司(10)内山雄史(10)菅野篤史(10)篠崎秀(10)赤間敬通(10)石井哲司(10)熊本康(10)小川昌弘(10)

- 熊坂隆行(10)高橋誠(10)野口幸哉(10)吉田耕嗣(10)高坂知秀(11)根本一幸(11)真柴善継(11)芳賀利規(11)菅野悟史(11)六戸朋隆(12)菊田裕(12)吉田俊一(12)猿田秀和(12)菊地輝臣(12)國分邦和(12)下条祐一(12)菅野聡(12)紺野高弘(12)阿部友弘(12)菅野徹(12)菅野均(12)石川亨(13)佐々木達(13)樋口智洋(13)齋藤弘樹(13)渡邊勝己(13)石川亨(13)佐々木太(13)中村充浩(14)木幡健一(14)遠藤克仁(14)廣野功二郎(14)中木三達(14)安藤寛知(14)高橋剛(14)伊藤規義(14)丹治剛俊(14)宮本教広(14)高橋朋之(15)佐藤光太郎(15)守山直樹(15)丹治芳史(15)菅野元樹(15)渡邊繁(15)齋藤訓朗(15)柘植健至(15)熊坂幸代(16)橋本真(16)古閑康宏(16)渡邊亮亮(16)三浦佑一郎(17)大波あかり(17)鳴原智宏(17)尾形真希(17)土屋映梨(17)上杉光成(17)水野裕史(18)谷内雅一(18)佐藤正隆(18)川崎布美子(18)齋藤貴裕(18)塩野敏(18)酒井強(19)渡邊祝子(19)石澤亜由美(19)安達美希子(19)片平美代子(19)大槻美佳(19)古山由佳(20)渡邊雅敏(20)高野莉絵(20)齋藤広彰(21)安齋早紀(21)鈴木恭平(21)伊達孝浩(21)中川日路海(21)森真奈美(22)塩谷卓也(22)佐藤宏樹(22)竹内大宗(22)渡邊香織(22)金子卓也(23)佐藤裕子(23)羽根田建志郎(23)水口秀一(23)鈴木洋介(23)高橋政哉(23)紺野靖(23)長島慎弥(23)見城藍(24)鴨田智早(24)佐々木宏樹(24)佐藤(橋本)香澄(24)山内雄太(24)林直人(24)菅野数宙(24)渡邊卓也(24)菅野章平(24)松田ゆきえ(24)國分優佳(24)阿

平成28年度在校生支援事業

○定期演奏会・発表会補助	
・吹奏楽部	
第33回定期演奏会	50,000円
・合唱部	
第14回定期演奏会	50,000円
・ダンス部	
第10回定期発表会	20,000円
・美術部	
桜美展	30,000円(見込)
○全国大会出場への激励金	
・弓道部	150,000円
・美術部	30,000円
○体育設備支援	
・部活動製氷機	207,152円
・製氷機用電気工事費	66,960円

- 部兼太郎(24)菅野峻介(24)宮本圭太(25)阿部真理子(25)鈴木春世(25)齋藤大地(25)千代間祥之(26)橋本宏貴(26)佐久間健太(26)藤家良輔(26)古山彩佳(27)川口真(27)佐々木孝智(27)佐藤芳哉(27)渡辺愛(27)大倉友也(27)鈴木奨之(28)佐瀬大地(28)五十嵐給里(28)塩原芳樹(28)今野由紀(28)大宮誠二郎(28)関川崇(28)佐藤望(28)岡部敦(28)菅野達也(28)齋藤龍(28)大和田善愛(28)澤井友平(28)渡邊ちひろ(28)尾形茉帆(29)加藤真弓(29)宗像麻衣(29)尼本瞬也(29)角田勇貴(29)佐藤匠(29)菊池貴之(29)眞島慧(29)西條琢磨(29)菅野良太(30)近藤杜聡(30)齋藤孝稀(30)高島麗奈(30)鈴木将稀(31)見城航(31)永野拓海(31)高橋史弥(31)佐々木勇輔(31)佐藤雅(31)渡邊翔(31)澤井直久(31)名倉直輝(32)佐藤慧(32)鈴木美結(32)福富亮(32)安田稔里(32)金子耕也(32)菅野翔太(32)小野祥生(32)今泉翔太(32)元村隼登(32)山岸勇士郎(32)橋内千紘(32)菅野日菜(33)佐藤佑哉(33)安藤千尋(33)遠藤ゆきな(33)大堀

倫子(33)森藤孝介(33)加納沙樹(33)加藤愛海(33)佐藤由佳(33)古山拓未(33)鈴木敬太(33)丹治航(33)赤間大樹(33)上原子祐麻(33)根根優介(33)旧職員 松本緑、森和茂、八巻淑子、星一彰、浦井洋子、村上啓正、渡部雄二、亀岡貞彰、五十嵐彰、星和久、渡辺州、上川洋行、皆川郁夫、鈴木浩一、室井光、渡辺喜市、佐藤馨、三浦賢一、高柴智子、丸山正好、齋藤和也、矢部邦子、長谷川和弘、瓜生浩、深澤陽一、千葉宏、千葉金之助、黒澤元省、佐藤恵一、猪狩幸一、平岩典男、田村秀夫、半沢恵梨

平成二十八年四月一日から現在までに振り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありましたら、事務局までご一報下さい。

(表1) 年度別 現役合格者 延べ人数

Table with 12 columns for graduation years (S57 to H5) and 3 rows for total students, public universities, and private universities. Includes sub-tables for years H6-H16 and H17-H27.

今年度の入試は新課程が導入されて二年目である。今年から英語、国語、地歴・公民が新課程へ移行したが、今年度のセンター試験では昨年の数学や理科のよつな変更がなく、出題内容



星 岳郎 進路指導部主任

進路

もすでに数年前から新課程を意識した出題が取り入れられていたこともあり、大きく傾向が変わることはなかった。それでも、英語や地歴・公民の一部で新しい内容がみられた。二年目を迎えた数学、理科でも新傾向の出題がみられた。二〇二〇年度より導入される予

(表2) 大学別合格者数 (平成27・26・25年度入試)

Table with 4 columns: University Name, Heisei 27, Heisei 26, Heisei 25. Lists various universities and their admission numbers.

Table with 4 columns: University Name, Heisei 27, Heisei 26, Heisei 25. Lists various universities and their admission numbers, including a total row.

現役大学等進学率...34期 平成27年度生(80.7%)、33期 平成26年度生(83.7%)、32期 平成25年度生(80.1%)

定の大学入学希望者学力評価テスト(仮称)では記述式を含むテストに変わり、思考力や判断力を重視した内容となる見通しであるが、今年のセンター試験でも一部の教科・科目で基本的な知識を活用し思考力を測ろうとする出題がみられた。この傾向は今後も続くと思われる。文系では理科の「化学基礎」で難化がみられたものの、「国語」「世界史B」「日本史B」などの文系科目で得点しやすかったことから総合型の平均点は上昇した。文系人気も復活してきている。

特に法・経済・国際に人気が集まった。理系では、受験者の多い「物理」「化学」で難化した影響から、文系とは対照的に平均点はダウンした。特に新課程となり理科の負担が増している。

本校で毎年志望者が多く出る福島大学は、北関東からの志望増により全体的に難化が予想された。しかし、実際は、人間発達学類は倍率が高く非常に苦戦したが、行政政策・理工学類は昨年同様で、経済経営学類は倍率が低めであった。本校生は英語・数学を苦手とする者が多い。そのため理工学類や経済経営学類の二次対策に苦しんだ。また小論文も広く社会全般に関心を持ち、論理的に読み、考え、表現するという対策に時間がかか

る科目である。そのため人間発達学類・行政政策学類の二次試験対策にも苦慮した。福島大学に限らず、二次試験も大学入試改革により変わりつつある。今後は、二次対策についても見直していく必要がある。

今年度は、東北大学二名、福島大学三五名、山形大学一〇名の合格者を出し、国公立大学の現役合格者数は九〇名となった。私立大学でも、早稲田大学等、多くの難関大学への合格を果たした。国公立大学合格者数からは苦戦を強いられと言え、入学時からセンター直前までの厳しい成績の状態を思うと、かなり健闘していると考えられる。

これは生徒達が三年間、文武両道を実現すべく全力で取り組んできたからに他ならない。また、既卒生のセンター試験志願者数は昨年度大学入学率が上昇した影響で減少したが、本校でも昨年同様、現役指向の強まりから私立大学受験者・合格者が多く、浪人する者も減少した。ここ数年の傾向である地元志向の強まりも変わらない。中堅国公立大学を目指す生徒が多い本校にとつては、厳しい状態が続いており、今後も大きな変化は考えにくい。これまでの伝統を引き継ぎ、さらに発展させるために、何らかの対策を考えていかねばならない。

34期総括



34期学年主任
星 岳郎

1 はじめに

少子化の影響から、三十二期から八クラスが七クラスとなった。三十三年は東日本大震災の避難の関係から八クラスとなったものの、三十四期以降は現在まで七クラスが続いている。文武両道を目指す本校にとつて、生徒数減少は進路面でも部活動の面でもマイナスの影響が大きい。そんな中、今まで多くの先輩方・先生方が培ってきた東高の伝統を守るべく、三十四期はスタートした。

2 徐々に東高の生徒へ(一年)

入学式が終わり、学校生活が始まった。慣れない環境から緊張の日々を送っていたが、応援歌練習とその後の桜梅戦、自然文化探究学習等を経て、学習や部活動にも次第に慣れ、少しずつではあるが東高らしい生徒へと成長していった。

3 入学当初の資料から、学習面

が例年と比べ非常に厳しいスタートとなるのがわかっていった。そのため、予習・授業・復習という学習サイクルの習慣化をはかったが、七月の校外模試の結

果は厳しいものであった。それ以降も成績の低迷は続いたが、先生方と話し合い、団結力をしだいに強め、生徒は少しずつではあるが、力を付けていった。また、生徒指導の充実が全ての基本となるといふ考えから、生徒指導を徹底していくという方針のもとで、学年を運営していくことにした。挨拶は勿論、頭髪・服装についてもその都度指導を繰り返した。その積み重ねが学習だけでなく、部活動へも最後まで良い影響を与えたと思っている。

七月末、来年度の文理選択を促した。文系よりも理系の方が国公立大学への進学者が多いという現状から、三十二期と同様、文系三クラス、理系四クラスとなった。しかし、その後文低理高の傾向が見られることとなり、三十二期からは文系四クラス、理系三クラスとなつて現在まで続いている。文理選択の時点ではやむを得ない判断であったが、その後文転(理系から文系に代わること)する生徒も出た。

3 沖縄への修学旅行と受験生への切り換え(二年)

入学前アンケートでの生徒の圧倒的な希望を受け、修学旅行は沖縄となった。九月下旬の出発であったが、天候にも恵まれ、思い出深いものとなった。到着

早々、現在も問題となっている普天間基地を高台から望み、爆音の中すぐ上空を飛行するオスプレイも見た。そこからすぐに最初の宿泊先へ向かったが、そこは普天間基地が移転される予定の辺野古基地のすぐ北側であり、現在抱える沖縄の問題を考えさせられた。また、沖縄伝統の踊りエイサーを皆で踊るなど、沖縄の文化や美しい自然を満喫できた。最後に、戦争当時のままの姿を残す糸数豪や戦後復元された首里城を見学し、多くを学習できた修学旅行であった。

旅行後、すぐに学年集会を開き、受験生としての切り替えを促した。学習面では、早朝課外も始まったが、成績は一進一退の状態が続いた。年が明けた最初の校外模試の結果が出た。そこから出た国公立大学合格数の予測はかなり厳しいものであった。ここから部活動を続けながらも学力の伸長を目指した。

4 部活動と文化祭(三年)

部活動は、最後まであきらめずに全力で取り組み、インターハイ地区予選では全部活動が県大会に出場できた。東北大会にはハンドボール部が、全国大会には男子陸上部(個人)、女子弓道部(団体)、山岳部、合唱部、放送部が出場権を勝ち取り、例年以上の素晴らしい成果を出

してくれたい。

今年も三年に一度の公開文化祭が行われた。学習時間を確保しながらも夏休み後半の夏期学習会から準備を始め、仮装行列やクラス展示に知恵を出し合い、クラスがまとまって乗り越えることができた。大切な時期ではあったが、これを機にクラスの団結、そして学年としてのまとまりが一層増していった。

5 成果と課題

国立大学合格が九十名と厳しい結果となった。内容的には東北大二名、筑波大一、埼玉大五名、山形大十名、地元福島大三十五名となった。しかし、入学当初の成績やその後の推移を考えると、生徒達は十分にその力を発揮してくれたと思う。

6 結び

三十四期の生徒達は素直で先生方の話をよく理解し、学習や部活動等全てにおいてよく努力してくれた。先生方も担任は三年間変わらず、副担任の先生方も含め、団結しながら過ごすことができた。また、生徒の進路実現のため、学年外の先生方にも多大な協力をいただいた。進路指導部を始めすべての先生方のご協力のもと多くの生徒達の進路実現が可能となったと考えている。改めて感謝申しあげたい。

全国大会出場報告

全国高総文祭

ひろしま大会に参加して

美術部顧問 真柴 毅

平成二十八年七月二十九日から三十一日にかけて、広島で開催された全国高等学校総合文化祭の美術・工芸部門に本校美術部三年の多田有季恵が福島県代表として参加しました。彼女は生徒会役員を務める傍ら、二年次から美術部に入部してきた生徒です。油絵はまだ三作目でしたが、前年度の県高校美術展に出品した作品が高く評価され、二六八点の中から全国展推薦作品の五点に選ばれました。美術部としては二年ぶりの全国展への出品になります。



まず、会場である広島県立美術館を訪れました。展示室には各都道府県から選抜された四百

点の作品が所狭しに並べられています。テーマや表現方法は様々ですが、どの作品からも高校生らしい瑞々しい感性と情熱が伝わってきました。福島県からの出品は絵画のみでしたが、個人的にはダイナミックでユーモラスな立体作品が強く印象に残っています。

続いて総合開会式を鑑賞し、最終日は部門開会式と講演会、交流会に参加しました。特に交流会は、全国の出品者でランダムに編成された班ごとに対話形式の鑑賞を行い、とても刺激になったようです。他県の四人の高校生と互いの作品について制作意図や感想を堂々と意見し合う姿に、私も頼もしさを感じました。これは部活動だけでなく、生徒会や授業などの学校生活全般で培われた指導の成果だと思っています。

今回の参加にあたり、同窓会から励ましのお言葉と多大な激励金をいただきました。心から感謝申し上げますとともに、今後ともご支援くださいますようお願いいたします。
(二期生)

弓道部の活動について

弓道部顧問 千葉 聡

せっかくの機会をいただきましたので、弓道競技について少し説明します。

個人戦では、基本的には各自四本を三回引きます。県大会で全国大会の切符を手に入れるまでには最低でも十二本を引くこととなります。試合状況によっても異なりますが、おそらく二本外すと全国大会には届きません。時には十二本すべてを的中させた後、射詰競技(外れた時点で負けというサドンデスのようなもの)が何本も続き、壮絶な決定戦が繰り広げられることも珍しくありません。団体戦は、「五人立ち」と「三人立ち」の二種類があり、「五人立ち」の場合は五人の総計二十射で、「三人立ち」の場合は十二射で試合が行われます。一つの試合は七分から八分ですが、緊張感あふれる数分間は息苦しいほどに見応えのあるものです。

よく「弓道は個人競技だよ」と言われることがあります。確かにひとりひとりが外さなければ負けることはありません。しかし、お互いを鼓舞し合うことで普通ではあり得ないほどの力を発揮できることがあります。



一人では成し遂げられないことでも、チームワークを強固にすることでたどり着ける世界があるのではないかと思うのです。その意味で弓道は立派な団体競技です。技術の向上はもちろん、その「チームワーク」を向上させるためのさまざまな取り組みが部活動をより深く、楽しいものにしていくと考えています。

昨年は、曹洞宗安洞院の横山様のご協力をいただき、「坐禅教室」を開催しました。日常とは違った静寂の中で、新しい何かを感じてくれたと思います。もし、部活動が競技力の向上のみを目的とするなら、生徒たちにとってそれほど魅力的なものではなく、なってしまうのかもしれない



ません。

第三十五回全国高校弓道選抜大会には、男子個人戦に吉田あおぞら、女子団体戦に伊藤清花、佐藤佑香、石川夏希、紺野桜子が参加しました。試合そのものは数分間ですが、その数分間に数ヶ月の練習の成果をつぎ込みました。結果は吉田(四射一中)、女子団体(十二射六中にて五十チーム中二十位)ともに目標を果たすことはできませんでしたが、夏の南東北インターハイに向かつて確かな自信となりました。これからも弓道部は「心」をしつかりと育みながら、一步一步成長を続けて参ります。

同窓会や保護者の方々ははじめ、私たちの成長に関わっていただいた全ての方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。

平成28年度 部活動報告

● 運動部

野 球 部

第68回春季東北地区高等学校野球福島県大会東北支部予選(4月23日から5月3日)
2回戦 2 5 聖光学院
敗者復活2回戦
7 3 二本松工業
敗者復活3回戦
2 1 福島工業
代表決定戦 3 1 福島北
第68回春季東北地区高等学校野球福島県大会(5月15日)
1回戦 7 9 須賀川
第59回春季東北支部高等学校野球選手権大会(6月11日から15日)
1回戦 6 1 福島工業
2回戦 6 3 福島西
準決勝 2 6 安達
第98回全国高等学校野球選手権福島大会(7月9日、11日)
1回戦 8 1 平工業
2回戦 4 6 船引
第68回秋季東北地区高等学校野球福島県大会東北予選(8月31日、9月3日)
1回戦 7 4 福島成蹊
2回戦 2 0 福島
準決勝 7 8 学法福島
第68回秋季東北地区高等学校野球福島県大会(9月16日)
1回戦 2 10 白河実業
第27回秋季東北支部高等学校野球選手権大会(10月16日、17日)
2回戦 4 2 二本松工業
準決勝 7 1 安達
決勝 4 3 福島北(優勝)

学校体育大会東北地区大会(5月13日、16日 福島市十六沼公園サッカー場)
第3位
1回戦 11 0 福島北
2回戦 1 2 福島南
敗者復活
2回戦 6 0 二本松工業
3回戦 1 0 福島商業
代表決定戦 1 0 福島
3位決定戦 2 0 福島南

平成28年度第62回福島県高等学校体育大会(5月28日、30日、6月3日、5日鳥見山多目的広場、福島市十六沼公園サッカー場)
第2位
1回戦 3 1 白河
(5月28日 十六沼公園サッカー場)
2回戦 3 2 磐城
(5月29日 十六沼公園サッカー場)
準々決勝 3 1 福島
(5月30日 十六沼公園サッカー場)
準決勝 1 0 郡山商業
(6月3日 鳥見山多目的広場)
決勝 0 2 尚志
(6月5日 鳥見山多目的広場)
第58回東北高等学校サッカー選手権大会(6月17日、20日 ひとめぼれスタジアム宮城、七ヶ浜サッカースタジアムほか)
ベスト8
1回戦 1 0 秋田南
(6月17日 七ヶ浜サッカースタジアム)
2回戦 0 4 聖和学園
(6月18日 ひとめぼれスタジアム宮城)
F1リーグ
第10位
勝ち点12 (3勝12敗3分)
第1節 0 1 湯本
(4月9日 十六沼公園サッカー場)
第2節 0 2 富岡

(4月16日 相馬光陽サッカー場)
第3節 0 3 聖光学院
(4月23日 十六沼公園サッカー場)
第4節 0 1 帝京安積
(4月30日 十六沼公園サッカー場)
第5節 1 2 福島工業
(5月3日 十六沼公園サッカー場)
第6節 0 2 郡山
(5月7日 十六沼公園サッカー場)
第7節 3 2 学法石川
(6月11日 あづま補助陸上競技場)
第8節 1 5 尚志2nd
(6月25日 十六沼公園サッカー場)
第9節 0 1 白河
(7月2日 変奏多目的運動広場)
第10節 7 1 湯本
(7月9日 西部サッカー場メイン)
第11節 1 2 富岡
(7月16日 相馬光陽サッカー場)
第12節 1 3 聖光学院
(7月18日 十六沼公園サッカー場)
第13節 1 1 帝京安積
(7月23日 西部サッカー場メイン)
第14節 1 1 福島工業
(8月27日 十六沼公園サッカー場)
第15節 2 0 郡山
(9月3日 西部サッカー場サブ)
第16節 0 0 学法石川
(9月10日 西部サッカー場サブ)
第17節 0 2 尚志2nd
(9月17日 尚志高等学校)
第18節 1 2 白河
(9月22日 十六沼公園サッカー場)
プレオフ 4 1 磐城桜が丘
(11月19日 十六沼公園サッカー場)
次年度、F1リーグ残留
F3リーグ
第5位
予選リーグB組4位
勝ち点12 (4勝3敗)
第1節 1 0 福島商業
(4月25日 福島東高校)
第2節 3 0 本宮
(4月30日 福島東高校)
第3節 0 1 安達

(5月3日 福島明成高校)
第4節 1 2 福島明成
(5月7日 本宮高校)
第5節 4 0 橘
(6月11日 福島商業高校)
第6節 3 1 福島
(6月25日 本宮高校)
7月19日 本宮高校
第7節 1 6 保原
(7月2日 福島商業高校)
順位決定リーグ戦
第1試合 3 0 二本松工業
(7月28日 十六沼公園サッカー場)
第2試合 5 1 福島明成
(7月29日 十六沼公園サッカー場)
第3試合 4 1 松韻福島
(7月30日 十六沼公園サッカー場)
第95回全国高等学校サッカー選手権大会福島県大会
ベスト8
1次大会 免除
2次大会
4回戦 3 1 福島明成
(10月16日 十六沼公園サッカー場)
準々決勝 2 3 郡山
(10月22日 十六沼公園サッカー場)
平成28年度福島県高等学校新入体育大会東北地区大会
(11月12日、15日福島東高校、福島南高校、福島市十六沼公園サッカー場)
第2位
2回戦 2 0 安達
(11月13日 福島東高校)
準決勝 2 1 福島商業
(11月14日 十六沼公園サッカー場)
決勝 1 2 福島工業
(11月15日 十六沼公園サッカー場)
平成28年度福島県高等学校新入体育大会
(11月26日、28日、12月3日、4日いわきグリーンフィールド、多目的広場ほか)
ベスト16
1回戦 3 0 白河

卓球部

(11月26日 いわき明星大学)
2回戦 0 2学法石川
(11月27日 いわき明星大学)
卓球部
福島県高等学校体育大会県北地区大会
男子
学校対抗 福島東3 0本宮
2回戦 福島東0 3橘
3回戦 福島東0 3橘
代表決定戦
福島東1 3聖光学院
個人ダブルス
遠藤・齋藤 県大会出場
個人シングルス
山科海翔 県大会出場
女子
学校対抗 福島東3 2福島明成
1回戦 福島東0 3安達
2回戦 福島東0 3安達
代表決定戦
福島東0 3本宮
第62回福島県高等学校体育大会
男子
個人ダブルス
遠藤・齋藤 初戦敗退
個人シングルス
山科海翔 2回戦敗退
第69回福島県総合体育大会県北地区予選
男子
学校対抗 2 3保原
2回戦 2 3保原
個人シングルス
山科海翔 県大会出場
女子
学校対抗 福島東3 0福島北
1回戦 福島東1 3安達
2回戦 福島東3 2本宮
代表決定戦
福島東3 2本宮
(第5位 県大会出場)
個人シングルス
森 彩乃、篠田郁佳 県大

会出場
第69回福島県総合体育大会県大会
男子
個人シングルス
山科海翔 3回戦敗退
女子
学校対抗 0 3磐城第一
1回戦 0 3磐城第一
個人シングルス
森 彩乃、篠田郁佳 2回戦敗退
平成28年度全日本卓球選手権大会県北地区予選
男子
ジュニアシングルス
山科海翔、鈴木 藍 県大会出場
女子
ジュニアシングルス
森 彩乃 県大会出場
一般ダブルス
齋藤・篠田 県大会出場
平成28年度全日本卓球選手権大会福島県予選
男子
ジュニアシングルス
山科海翔 初戦敗退
鈴木 藍 2回戦敗退
女子
ジュニアシングルス
森 彩乃 2回戦敗退
福島県高等学校新人体育大会県北地区大会
男子
学校対抗 福島東3 0福島商業
2回戦 福島東0 3橘
3回戦 福島東0 3橘
代表決定戦
福島東0 3福島西
個人ダブルス
山科・鈴木 県大会出場
個人シングルス
山科海翔・遠藤峻介・蓬田 洋光 県大会出場

女子
学校対抗 福島東1 3福島西
2回戦 福島東1 3福島西
代表決定戦
福島東0 3福島成蹊
個人ダブルス
齋藤・篠田 県大会出場
個人シングルス
森 彩乃 県大会出場
第55回福島県高等学校新人体育大会県大会
男子
個人ダブルス
山科・鈴木 2回戦敗退
個人シングルス
山科海翔、遠藤峻介 初戦敗退
蓬田洋光 2回戦敗退
女子
個人ダブルス
齋藤・篠田 初戦敗退
個人シングルス
森 彩乃 初戦敗退
陸上競技部
第62回福島県高等学校体育大会
男子
800m 佐藤太一 5位
棒高跳 大枝智也 2位
走幅跳 吉沢奎吾 3位
4x400mR 4位
吉田匠見・滝口耕史
寒河江勇介・佐藤太一
吉沢奎吾・廣畑希歩
女子
棒高跳 佐々木優衣 5位
平成28年度東北高等学校陸上競技大会
男子
800m 佐藤太一 準決勝敗退
棒高跳 大枝智也 6位
混成8種 吉沢奎吾 途中棄権
4x400mR 準決勝敗退
吉田匠見・滝口耕史

寒河江勇介・佐藤太一
吉沢奎吾・廣畑希歩
福島県高等学校新人陸上競技大会
男子
1500m 高橋信太郎 5位
5000m 高橋信太郎 4位
混成8種 吉沢奎吾 1位
東北高等学校新人陸上競技大会
男子
1500m 高橋信太郎 9位
5000m 高橋信太郎 10位
混成8種 吉沢奎吾 7位
福島県高等学校駅伝競走大会
男子 3位 2時間18分11秒
高橋開登・嶋原 廉
安部健太郎・木幡郁秋
田崎健太郎・安部竜太郎
高橋信太郎
バスケットボール部
福島県高等学校体育大会県北地区大会
男子
予選トーナメント
福島東102 44福島西
福島東43 77福島商業
県大会出場決定トーナメント
福島東98 28学法福島
福島東117 60保原
女子
予選リーグ
福島東36 85福島商業
福島東79 51福島明成
県大会出場決定トーナメント
福島東74 40福島北
福島東65 73橘
第62回福島県高等学校体育大会
男子
1回戦 福島東63 64喜多方
福島県総合体育大会県北地区大会
2回戦 福島東245 5梁川

準々決勝 福島東65 71福島工業
代表決定戦
福島東92 58福島明成
女子
1回戦 福島東62 42福島明成
2回戦 福島東16 116福島商業
福島県総合体育大会
男子
1回戦 福島東87 80東日大昌平
2回戦 福島東95 60田島
準々決勝 福島東38 130福島南
福島県選抜高校バスケットボール選手権大会県北地区大会
男子
予選トーナメント
福島東158 27橘
福島東61 73福島成蹊
県大会出場決定トーナメント
福島東142 15福島北
福島東85 53保原
女子
予選リーグ
福島東62 61安達
福島東43 109福島東校
県大会出場決定トーナメント
福島東37 69保原
福島県男女総合バスケットボール選手権大会
男子
1回戦 福島東95 75勿来工業
2回戦 福島東62 100北芝電機
福島県選抜高校バスケットボール選手権大会
男子
1回戦 福島東101 56田島
2回戦 福島東54 51磐城桜が丘
準々決勝
福島東56 111福島東校
福島県高等学校新人体育大会県北地区大会
男子
予選トーナメント
福島東141 27二本松工業
福島東86 42福島商業
1位リーグ 第3位

福島東73 77 福島工業
 福島東68 89 福島東稜
 福島東49 38 福島
 女子
 予選トーナメント
 福島東53 67 橋
 福島東31 64 保原
 福島県高等学校新人体育大会
 男子
 1回戦 福島東68 62いわき総合
 2回戦 福島東70 62須賀川桐陽
 準々決勝 福島東60 79若松商業
 バレーボール部
 福島県高等学校体育大会県北地区大会
 男子
 予選リーグ
 福島東2 0 福島北
 福島東2 0 二本松工
 福島東2 0 福島
 決勝リーグ
 福島東1 2 福島工
 福島東2 1 福島商
 11チーム中 第2位
 女子
 予選ブロック
 福島東2 0 福島成蹊
 福島東0 2 保原
 福島東1 2 橋
 福島東0 2 福島南
 福島東2 0 福島東稜
 福島東2 0 安達
 15チーム中7位 県大会出場
 第62回福島県高等学校体育大会
 男子
 1回戦 福島東2 0 日大東北
 2回戦 福島東2 0 川口
 準々決勝 福島東1 2 相馬
 ベスト8
 女子
 1回戦 福島東1 2 学法石川
 福島県総合体育大会県北地区

大会
 男子
 予選リーグ
 福島明成、福島、保原、福島北の各校に勝ち、ブロック1位
 決勝リーグ
 福島工に0 2で負け、福島西、福島に勝ち、10チーム中 第2位
 女子
 予選ブロック
 福島東0 2 福島南
 福島東0 2 福島東稜
 予選敗退(14位)
 福島県総合体育大会
 男子
 1回戦 福島東0 2 光南
 県北地区1年生大会
 男子
 1回戦 福島東2 0 学法福島
 2回戦 福島東2 0 福島明成
 決勝戦 福島東2 1 福島工 優勝
 県北地区高等学校バレーボール秋季選手権大会
 男子
 予選リーグ 福島西、学法福島、聖光学院の各校に2 0
 ブロック1位
 決勝リーグ
 福島東0 2 福島商業
 福島東0 2 福島工
 11チーム中 第3位
 女子
 予選ブロック
 福島東2 0 福島西
 福島東2 0 福島
 順位決定トーナメント
 福島東0 2 福島南
 福島東2 1 福島商
 14チーム中5位
 福島県高等学校新人体育大会
 県北地区大会
 男子

予選リーグ1位
 1位〜6位リーグ
 福島東0 2 福島商
 福島東0 2 福島工
 福島東1 2 福島
 福島東2 0 福島西
 福島東2 0 福島明成
 11チーム中 第4位
 女子
 予選ブロック
 福島東2 1 福島北
 福島東0 2 聖光学院
 順位ブロック
 福島東0 2 福島南
 福島東1 2 福島商
 5〜10位決定戦
 福島東2 1 福島西
 福島東2 1 福島明成
 福島東0 2 福島東稜
 14チーム中6位 県大会出場
 福島県高等学校新人体育大会
 男子
 1回戦 福島東2 0 郡山
 2回戦 福島東0 2 田村
 テニス部
 福島県春季ジュニアシングルス選手権大会県北地区大会
 男子
 18歳以下
 優勝 渡辺祐希
 2位 瓦吹拓人
 女子
 18歳以下
 優勝 大内藍子
 2位 大山千咲
 3位 筒井実咲
 福島県春季ジュニアダブルス選手権大会県北地区大会
 男子
 18歳以下
 優勝 角掛未来・渡辺祐希ペア
 2位 瓦吹拓人・紺野竜加ペア
 3位 筒井実咲
 女子
 18歳以下
 優勝 角掛未来・渡辺祐希ペア
 2位 瓦吹拓人・紺野竜加ペア
 3位 高橋綾汰・高橋亮太ペア
 女子
 学校対抗 優勝
 シングルス
 3位 筒井実咲
 ダブルス
 優勝

18歳以下
 2位 大内藍子・大山千咲ペア
 3位 菅野真里奈・筒井実咲ペア
 福島県春季ジュニアシングルス選手権大会
 男子
 18歳以下
 4位 角掛未来
 女子
 18歳以下
 10位 大内藍子
 福島県春季ジュニアダブルス選手権大会
 男子
 18歳以下
 ベスト8
 角掛未来・渡辺祐希ペア
 瓦吹拓人・紺野竜加ペア
 女子
 18歳以下
 ベスト8
 大内藍子・大山千咲ペア
 福島県高等学校体育大会県北地区大会
 男子
 学校対抗 優勝
 シングルス
 1位 角掛未来
 2位 瓦吹拓人
 3位 渡辺祐希
 ダブルス
 1位 角掛未来・渡辺祐希ペア
 2位 瓦吹拓人・紺野竜加ペア
 3位 高橋綾汰・高橋亮太ペア
 女子
 学校対抗 優勝
 シングルス
 3位 筒井実咲
 ダブルス
 優勝

菅野真里奈・筒井実咲ペア
 2位 大内藍子・大山千咲ペア
 第62回福島県高等学校体育大会
 男子
 学校対抗 2位
 シングルス
 7位 角掛未来
 ダブルス
 3位 角掛未来・渡辺祐希ペア
 女子
 学校対抗 3位
 福島県総合体育大会県北地区大会
 男子
 部シングルス
 優勝 渡辺祐希
 3位 紺野竜加
 部ダブルス
 優勝 渡辺祐希・紺野竜加ペア
 3位 鈴木大翔・児山諒河ペア
 部シングルス
 優勝 佐藤 魁
 部ダブルス
 優勝 佐藤 魁・大泉和己ペア
 女子
 部シングルス
 優勝 野地紅美子
 3位 渡邊歩実
 福島県総合体育大会
 男子
 部シングルス
 5位 渡辺祐希
 部ダブルス
 3位 渡辺祐希・紺野竜加ペア
 部シングルス
 2位 佐藤 魁
 部ダブルス
 3位

佐藤 魁・大泉和己ペア
 女子
 部ダブルス
 3位 野地紅美子・渡邊歩実ペア
 東北ジュニアシングルステニス選手権大会
 男子
 優勝 渡辺祐希
 2位 紺野竜加
 福島県高等学校新人体育大会
 東北地区大会
 男子
 学校対抗 優勝
 シングルス
 優勝 渡辺祐希
 3位 紺野竜加
 女子
 学校対抗 3位
 福島県高校新人テニス選手権大会
 男子
 学校対抗 3位
 東北秋季ジュニアテニス選手権大会
 男子
 シングルス
 優勝 紺野竜加
 4位 鈴木大翔
 ダブルス
 2位 鈴木大翔・佐藤慶一ペア
 3位 佐藤 魁・菅野佑斗ペア
 女子
 シングルス
 3位 安齋ひかり
 5位 野地紅美子
 ダブルス
 10位 安齋ひかり・野地紅美子ペア
 福島県ダブルステニス選手権大会
 男子(ジュニアの部)
 5位

柔道部 渡辺祐希・紺野竜加ペア
 福島県高等学校体育大会東北地区大会
 男子団体 第3位
 予選リーグ
 福島東4 1福島明成
 福島東3 2福島北
 福島東0 5聖光学院
 1〜4位決定戦
 福島東0 5福島工業
 福島東1 4保原
 男子個人
 73kg級第2位 阿部康平
 60kg級第1位 渡邊大賀
 66kg級第3位 石田真清
 女子個人
 52kg級第1位 渡辺伶菜
 以上4名県大会出場
 第62回福島県高等学校体育大会
 男子団体
 2回戦 福島東3 2岩瀬農
 3回戦 福島東0 5田村
 男子個人
 73kg級 阿部 2回戦敗退
 60kg級 渡邊 2回戦敗退
 66kg級 石田 2回戦敗退
 女子個人
 52kg級 渡辺 1回戦敗退
 福島県総合体育大会東北地区大会
 少年女子
 先鋒の部第2位 渡辺伶菜
 少年男子
 先鋒の部第7位 久保田智也
 大将の部第6位 菊地健太
 県大会出場
 福島県総合体育大会
 少年男子
 大将の部 菊地 1回戦敗退
 先鋒の部 久保田 2回戦敗退
 少年女子
 先鋒の部 渡辺 2回戦敗退
 福島県高等学校新人体育大会

東北地区大会
 男子団体 第4位 県大会出場
 予選リーグ
 福島東3 2福島工業
 福島東1 4福島北
 福島東3 2福島南
 3〜6位決定戦
 福島東3 2福島明成
 福島東2 3保原
 男子個人
 60kg級第5位 久保田智也
 81kg級第3位 菊地健太
 女子個人
 52kg級第1位 渡辺伶菜
 以上個人3名県大会出場
 福島県高等学校新人大会
 男子団体
 予選リーグ 1勝1敗
 3校リーグ
 福島東3 2塙工
 福島東1 4若商
 ベスト16校により全国高等学校柔道選手権大会福島県大会出場
 男子個人
 60kg級 久保田 1回戦敗退
 81kg級 菊地 2回戦敗退
 女子個人
 52kg級第1位 渡辺伶菜
 全国高等学校柔道選手権大会
 福島県大会出場
 全国高等学校柔道選手権大会
 福島県大会
 男子団体
 1回戦 福島東対光南
 3人残しで敗退
 女子個人
 52kg級 渡辺 1回戦敗退
 剣道部
 福島県高等学校体育大会東北地区大会
 男子団体
 5位(県大会出場)
 女子団体

5位(県大会出場)
 女子は5人制の団体戦に3名で出場
 第62回福島県高等学校体育大会
 男子団体
 1回戦
 (対 尚志高校 2 2)
 代表者戦で敗
 女子団体
 1回戦
 (対 白河高校 0 4)
 女子は5人制の団体戦に3名で出場
 福島県総合体育大会東北地区大会
 男子団体 5位(県大会出場)
 女子団体 9位
 女子は5人制の団体戦に3名で出場
 福島県高等学校新人体育大会
 東北地区大会
 男子団体 3位(県大会出場)
 男子個人
 出岡洋人(2 6)
 5位入賞(県大会出場)
 立子山健太(1 1)
 9位入賞(県大会出場)
 女子個人
 佐藤真由子(2 4)
 9位入賞(県大会出場)
 福島県高等学校新人体育大会
 男子団体 5位
 1回戦
 (対 学法石川高校 4 0)
 2回戦
 (対 尚志高校・第4シード 2 2)
 (代表者戦で勝)
 準々決勝
 (対 磐城高校 2 3)
 男子個人
 出岡洋人 2回戦敗退
 立子山健太 1回戦敗退
 女子個人
 佐藤真由子 1回戦敗退

東北高等学校剣道選手権大会
 男子団体 4位(県大会出場)
 ハンドボール部
 第67回福島県春季ハンドボール選手権大会(4月15日〜17日)
 2回戦 34 27福島北
 3回戦 21 22いわき総合
 【最終順位】ベスト8
 第62回福島県高等学校体育大会東北地区大会(5月14日〜16日)
 2回戦 26 24聖光学院
 3回戦 33 24福島北
 準決勝 35 19本宮
 決勝 21 39福島工業
 【最終順位】準優勝
 第62回福島県高等学校体育大会(6月2日〜6月5日)
 1回戦 20 19清陵情報
 2回戦 22 24福島工業
 3回戦 28 24福島工業
 【最終順位】ベスト8
 平成28年度福島県総合体育大会東北地区大会
 1回戦 31 13福島商業
 2回戦 17 33聖光学院
 【最終順位】5位
 平成28年度福島県総合体育大会
 1回戦 21 23郡山
 平成28年度福島県高等学校新人体育大会東北地区大会
 予選リーグ
 38 17福島商業
 31 17本宮
 21 26聖光学院
 決勝トーナメント
 準決勝 25 22福島工業
 決勝 21 19聖光学院
 【最終順位】優勝
 平成28年度福島県高等学校新人体育大会県大会
 2回戦 28 19福島西

3 回戦	19	18 郡山北工業
準決勝	31	27 安積
決勝	20	36 学法石川
【最終順位】	準優勝	
平成28年度東北選抜代表決定戦		
1 回戦	17	39 聖光学院
2 回戦	21	30 安積
3 回戦	17	39 学法石川
【最終順位】	4 位	
水泳部		
福島県高等学校体育大会東北地区予選(森合市民プール)		
男子		
50 m自由形2位		横山天馬
100 m自由形7位		古宇田大輔
100 m背泳ぎ5位		小林史弥
200 m背泳ぎ3位		横山天馬
100 m平泳ぎ3位		小林史弥
200 m平泳ぎ2位		上野智弘
400 mリレー5位		鈴木翔太
上野智弘・小林史弥		
橋 麗都・古宇田大輔		
400 mメドレーリレー6位		小林史弥・橋 麗都
上野智弘・古宇田大輔		
女子		
100 m背泳ぎ5位		永田 愛
200 m背泳ぎ4位		永田 愛
100 m平泳ぎ5位		荒明颯希
200 m平泳ぎ4位		荒明颯希
第62回福島県高等学校体育大会		
男子		
50 m自由形8位		横山天馬
100 m平泳ぎ8位		上野智弘
2名東北大会出場		
東北水泳大会		
男子		
50 m自由形		横山天馬
予選敗退		
100 m平泳ぎ		上野智弘

予選敗退		
福島県総合体育大会		
男子		
50 m平泳ぎ3位		上野智弘
100 m平泳ぎ7位		上野智弘
200 m平泳ぎ7位		上野智弘
女子		
50 m背泳ぎ7位		永田 愛
山岳部		
福島県高等学校体育大会登山大会(会津駒ヶ岳)		
優秀パーティー: 福島東Aパーティー、福島東Bパーティー		
東北高等学校登山大会出場権獲得		
東北高等学校登山大会(山形県・蔵王連峰)		
第8位(13パーティー参加)		
ソフトボール部		
福島県高等学校男子春季選抜ソフトボール大会		
1 回戦	福島東7	0 相馬
準決勝	福島東4	7 郡山北工
福島県高等学校女子春季選抜ソフトボール大会東北大会		
保原・東2	9 福島明成	
保原・東4	3 福島北	
順位決定戦		
保原・東 3	11 福島明成	
福島県高等学校体育大会東北地区大会		
男子		
福島東20	7 福島	
(4回コールド) 第1位		
女子		
保原・東1	9 福島南	
保原・東7	8 福島	
保原・東0	10 福島東稜	
保原・東5	8 安達	
順位決定戦		
保原・東0	19 福島明成	

第62回福島県高等学校体育大会		
男子		
予選リーグ		
福島東0	7 須賀川	
福島東20	4 相馬	
準決勝		2 位通過
福島東3	4 郡山北工	
(延長8回タイブレーカー)		
第3位		
福島県総合体育大会東北大会		
女子		
予選リーグ		
保原・東2	9 橋	(5回)
保原・東2	9 福島	(5回)
福島県総合体育大会		
男子		
1 回戦	福島東11	0 相馬
準決勝	福島東10	1 郡山北工
決勝	福島東10	4 須賀川
平成28年度福島県高等学校新入体育大会		
予選リーグ		
福島東9	0 安積黎明	
福島東8	1 相馬	
(5回コールド)		
準決勝	福島東3	5 郡山北工
第3位	第3代表で東北大会に出場	
第11回東北高等学校男子ソフトボール選抜大会		
男子		
1 回戦		
福島東3	1 白石工業(宮城)	
準決勝		
福島東0	1 南陽(山形)	
第3位		
バドミントン部		
福島県高等学校体育大会東北		

地区大会		
男子団体	5 位	県大会出場
女子団体	5 位	県大会出場
女子ダブルス		
五十嵐・安田組	ベスト8	
佐藤・菅野組	17 位	
第62回福島県高等学校体育大会		
男子団体		
1 回戦		
福島東0	3 富岡ふたば未来	
女子団体		
1 回戦		
福島東0	3 若松商業	
女子ダブルス		
五十嵐・安田組	2 回戦敗退	
佐藤・菅野組	1 回戦敗退	
福島県総合体育大会東北地区予選		
女子ダブルス		
佐藤・安田組	2 回戦進出	
安田成美	1 回戦敗退	
福島県高等学校新入体育大会		
東北地区予選		
男子団体	予選敗退	
男子シングルス		
三村海都	9 位	県大会出場
女子団体	3 位	県大会出場
女子ダブルス		
佐藤・安田組	菅野・遠藤組	
ベスト8	県大会出場	
安田成美	ベスト8	
菅野琴愛	9 位	
佐藤優奈	17 位	
福島県高等学校新入体育大会		

男子シングルス		
三村海都	1 回戦敗退	
女子団体		
1 回戦	福島東3	1 相馬
2 回戦	福島東2	3 郡山商業
女子ダブルス		
佐藤・安田組	2 回戦進出	
菅野・遠藤組	3 回戦進出	
女子シングルス		
安田成美	2 回戦進出	
菅野琴愛	3 回戦進出	
佐藤優奈	1 回戦敗退	
弓道部		
福島県選手的選手権大会 個人戦のみ(4月23日: 郡山市開成山弓道場)		
男子個人		
4 位	小野太一	
5 位	松谷 裕	
女子個人		
2 位	芳見桜子	
5 位	石川夏希	
福島県高等学校体育大会東北地区大会(5月14日~15日: 福島明成高校弓道場)		
男子団体	3 位	
(菅野恭也 寺田侑矢、小野颯斗、峯岸駿行、白坂唯斗、羽田大倫、吉田あおぞら)		
男子個人		
2 位	菅野恭也	
県大会出場権		
寺田侑矢、白坂唯斗		
女子団体	1 位	
(石川夏希、茂木七星、佐藤綾音、菅野彩花、木村真彩、佐藤佑香、芳見桜子)		
女子個人		
県大会出場権	佐藤佑香	
第62回福島県高等学校体育大会(6月3日~6日: 会津総合体育館弓道場)		
女子団体	3 位	

(石川夏希、茂木七星、佐藤綾音、佐藤佑香、木村真彩、菅野彩花、芳見桜子)
 平成28年度福島県総合体育大会東北地区大会(6月11日) 12日: 福島明成高校弓道場)
 男子団体 4位
 (菅野恭也、菊地悠太、吉田あおぞら)
 男子個人
 1位 菅野恭也
 女子団体 4位
 (石川夏希、紺野桜子、佐藤佑香)
 平成28年度福島県総合体育大会(7月1日) 3日: 郡山市開成山弓道場)
 女子団体 3位
 (石川夏希、紺野桜子、佐藤佑香、平美咲)
 女子個人
 6位 石川夏希
 平成28年度福島市民体育祭(8月8日: 福島明成高校弓道場)
 男子団体
 1位(安齋公大、高橋柁帆、松谷 裕)
 3位(菅野恭也、菅野滉起、吉田あおぞら)
 男子個人
 1位 松谷 裕
 2位 吉田あおぞら
 女子個人
 3位 阿部 遥
 女子団体
 2位(伊藤清花、佐藤佑香、石川夏希)
 3位(紺野桜子、平 美咲、阿部 遙)
 平成28年度福島県高校新人体育大会東北地区大会(9月17日) 18日: 福島明成高校弓道場)

男子団体 第2位
 (菅野恭也、安齋公大、小野太一、越尾恵太、吉田あおぞら、菅野滉起、菊地悠太)
 男子個人
 2位 菅野恭也
 6位 吉田あおぞら
 県大会 高橋柁帆
 女子団体 第3位
 (伊藤清花、佐藤佑香、阿部 遙、紺野桜子、石川夏希、齋藤千菜美、三浦奏美)
 女子個人
 第6位 佐藤佑香
 県大会
 紺野桜子、齋藤千菜美、上田実季、阿部 遥
 平成28年度福島県高校新人体育大会県大会(10月15日) 16日: いわき弓道場)
 男子個人
 第1位 吉田あおぞら
 : 東北大会(山形県)および全国大会(愛知県)出場権獲得
 射道優秀賞 吉田あおぞら
 女子団体 第3位
 (伊藤清花、佐藤佑香、阿部 遙、紺野桜子、石川夏希、上田実季、平 美咲)
 平成28年度全国高等学校弓道選抜大会県大会(10月29日) 30日: 会津総合体育館弓道場)
 女子団体 第1位
 (伊藤清花、佐藤佑香、石川夏希、紺野桜子)
 : 東北大会(山形県)および全国大会(愛知県)出場権獲得
 第35回全国高等学校弓道選抜大会(12月23日) 25日: 名古屋市)

男子個人
 吉田あおぞら
 (2、6) 4射2中
 準決勝進出ならず
 女子団体
 (伊藤清花、佐藤佑香、石川夏希、紺野桜子)
 12射6中 予選順位20位 / 50チ ム 決勝トーナメント進出ならず
 ダンス部
 第10回福島東高校ダンス部(FED) 発表会 平成28年7月29日(金)
 第47回福島わらじまつりダンスングそ だナイト ラジオ福島賞
 第9回日本高校ダンス部選手権バトル大会
 東日本大会 出場
 菅野 廉、三浦大樹、鈴木奎斗、安藤優希、河野尚道、安藤諒亮
 第10回日本高校ダンス部選手権新人戦 出場

●文化 部

合唱部
 第9回声楽アンサンブルコンテスト全国大会高等学校部門(平成28年3月)
 金賞(第1位)
 本選 総合第5位入賞
 東北地区音楽祭参加(6月 福島市音楽堂)
 県音楽学習発表会参加(6月 会津風雅堂)
 第14回定期演奏会(8月 福島市音楽堂)
 NHK全国学校音楽コンクール県大会(8月 福島市音楽堂) 優秀賞
 福島県合唱コンクール(9月 いわき文化芸術交流館アリオス)
 金賞 県代表 合唱連盟特別表彰
 全日本合唱コンクール東北支部大会(9月 山形市) 銅賞
 福島県声楽アンサンブルコンテスト(12月 福島市音楽堂) 銀賞
 吹奏楽部
 第33回定期演奏会開催(5月 福島県文化センター)
 東北地区音楽祭参加(6月 福島市音楽堂)
 県音楽学習発表会参加(6月 福島県文化センター)
 吹奏楽コンクール東北大会(7月 福島県文化センター) 金賞代表
 吹奏楽コンクール県大会(7月 いわき文化芸術交流館アリオス) 銅賞
 福島県アンサンブルコンテスト県大会(12月 福島市音楽堂)
 打楽器六重奏、サククス四重奏 金賞代表
 フルート三重奏、トロンボー ン三重奏 金賞
 福島県アンサンブルコンテスト県大会(1月 いわき文化芸術交流館アリオス)
 打楽器六重奏、サククス四重奏 銀賞
 美術部
 第70回福島県総合美術展覧会 佳作・県文化スポート局長賞 熊田敏秀
 青少年美術奨励賞・県教育長賞 横山愛実・多田有季恵
 山下 葵
 入選 三浦柚香
 福島県防犯協会連合会地域安全運動暴力追放運動ポスター

高校生・一般の部
 最優秀 斎藤菜緒
 高校生・一般の部
 佳作 佐藤 凜
 第40回全国高等学校総合文化祭(広島大会)
 多田有季恵
 第50回福島市民美術展覧会 青少年奨励賞
 國嶋菜月
 第84回福島県美術協会展 高校生優秀賞
 佐久間大夢・佐藤 凜
 平成29年度全国高等学校総合体育大会 福島県開催競技種目別大会ポスター
 ハンドボール
 最優秀賞 國嶋菜月
 バスケケットボール
 優秀賞 齋藤菜緒
 柔道
 優秀賞 佐藤 凜
 平成29年用国土緑化運動・育樹運動ポスター
 高等学校の部
 入選・国土緑化推進機構理事 長賞 熊田敏秀
 写真部
 平成28年度東北地区写真展 佳作 菅野 熙
 科学部
 平成28年度「科学の甲子園」福島県大会
 総合11位
 演劇部
 東北地区高等学校演劇連盟 春の発表会
 東北地区高等学校演劇連盟 秋のコンクール
 書道部
 第61回福島県たなばた展 個人賞
 奨励賞 大越朱乃
 銀河賞
 杉森未菜・鈴木新凌

団体賞 学校賞
 福島民報社・解放日報社主催
 日中友好展
 出品
 鏡 千夏・紺野心清
 齋藤はるな・阿部絵梨華
 滝口綾奈
 第26回国際高校生選抜書展
 (書の甲子園)

入選 松浦利奈・紺野心清
 第35回福島県高等学校総合文化祭書道展
 優秀作品展示 坂野井利緒
 第51回福島県高校書道展
 奨励賞
 鏡 千夏・阿部絵梨華
 齋藤はるな

放送委員会

第63回NHK林高校放送コンテスト東北相双大会
 テレビドキュメント
 優秀2席 県大会出場
 創作ラジオドラマ
 優秀1席 県大会出場
 県高校生放送コンテスト
 ラジオキャンペ ン部門
 優秀1席(2位) 東北大会
 出場

平成28年度(35期生) 部活動を終えて

生徒会

三十五期の生徒会役員は十二名と例年よりも大人数でした。周りからはそんなに必要なのかと言われることもありましたが、しかし三年間を振り返ると、この人数でないと生徒会の仕事は

出来なかつたと感じていました。特に公開文化祭の準備はとても苦勞しました。全員が未経験だったので先輩方が残して下さった資料を活用し、直接お話を伺う機会に質問などをして準備に取りかかりました。当日までの生徒会の様子は今では思い出すことが辛いほど大変なものでした。しかし、そのような状況だからこそ、私たちは後輩を含めた生徒会役員全員で協力することが出来たと思います。公開文化祭だけでなく、スポーツ大会などの他の行事でもみんなで協力して取り組むことが出来ました。

三年間生徒の中心として活動した経験は、これからの生活でも生きるものだと思います。
 (齋藤善哉)

弓道部

私は部活を通して相手を思いやり周囲に気を配ることや支え合うことの大切さを学びました。弓道部は部員が多く、一人一人の価値観が違つたため自分の考えを押しつけるのではなく周りの意見を取り入れながら話し合いをすることの大切さや部長として自分の事ばかり考えているのではなく、常に周りの様子を見て気を配ることを教わりました。また、部活をやつてきてた

た。弓を引く事が初めてである中、先生や先輩方から一から技術面や精神面についてご指導していただいたり、お互いに教え合つたりして高め合い、改めて支え合いの大切さに気づきました。

これまでに弓道部の部長として経験できたことを誇りに思い、今後のいろんな場合で部活で学んできた事を教わつた事を思いだして社会で生活していく中で生かしていきたいです。
 (寺田侑矢)

陸上競技部

私が部活動を通して学んだことは、人はいつでも誰かに支えられているという事です。陸上はほとんどが個人競技であるため、私は心のどこかで強ければ勝ち、弱ければ負ける、結局は自分次第なのだと思つていました。

しかしその考えは最後の県IH4x400mR決勝で覆りました。レース開始の時間が迫りスタートラインに立つた私達を待つていたのは大勢の東高の応援でした。その中には他校の選手もいて、間違ひなく東高の応援が一番凄かつたことを覚えて

います。そして決勝のレースが始まり、チームメイトが今まで一番の走りでバトンを繋いで

くれて東北大会出場を決めることが出来ました。こんなにも周りに助けられたレースは初めてだったし、この結果も泣いて喜んでくれたチームメイト、先生方、保護者の方々の姿を見て、自分達はこんなにも多くの人に支えられてきたんだなあと気がかされました。

私はこの大会で陸上競技の素晴らしさを知りました。部活動を通して得たこの経験はかけがえない財産になりました。
 (吉田匠見)

剣道部

私は剣道を通じて学んだことは仲間の大切さです。自分はキャプテンという大役を任せられ部をまとめないといけないという気持ちだけが空回りし部員の人と言い争いをする事が多々ありました。何度も悩み、考え、辞めたいと思つときもありました。でもそんな時に支えてくれたのは先輩方であり、家族、仲間でした。仲間の存在があつたからこそキャプテンという大役を無事終えることができたのだと思います。

また勝つことよりも感謝の気持ちを持つことの大切さ、礼儀作法、我慢することなどたくさん

のことも学ぶことが出来ました。剣道を通じて学んだことを

大切にしこれからの日々をすごしていきたいと思います。
 (佐藤裕斗)

水泳部

私は水泳部での活動を通して自己管理の大切さを学びました。水泳は個人競技であるため、日々の努力や体調管理がすべて自分ひとりだけに結果となつて返ってきます。そのため自分自身をよく理解して、自分の体格や弱点等と向き合つて、その強化・改善を中心に活動内容を自ら組み立てていく等、他の部活動より監督やコーチの介入が少ない分、シビアな自己管理能力が求められます。私は上位大会に出場するため、日々の練習を怠ることなく精力的に活動することが出来ました。ここで培つた自己管理能力は高校生活においての勉強にも大いに役に立ち、さらに自分で計画したことをやり遂げたという自信にもつながりました。そして、水泳部を通して得られたこれらの経験や自信等は、これから始まる大学生活をはじめ、この先の将来、社会に進出してからも必ず必要になると考えています。(横山天馬)

ハンドボール部

文武両道という校是にあこがれて東高に入学し、部活に勉強

たことに慣れていなく、苦勞していました。それでも、周りの部員達の協力や支えのおかげで、最後まで部を引っ張ることができました。部活をやっていた時は何気なく周りに頼ってしまふことがありましたが、引退してから周りの支えがどれだけ自分にとって重要であったのかを強く感じました。こうした思いから、自分一人だけでは成し遂げられなくても周りの支えが必ず力になると学びました。なので、周りの方々に対する感謝の気持ちを忘れずにこれからもがんばりたいと思います。(遠藤希望)

女子バドミントン部

私がバドミントン部で学んだことは、基礎の大切さだ。ダツシユやフットワーク、基礎打ち、ノックなどの基礎練習を毎日の部活で積み重ねることが試合の大事な場面で特に生きてくる。それに加えて練習の時に常に何のためにやっているのか目的を考えながら練習することが大切だと学んだ。

また、試合への入り方でも流れるが大きく変わってくる。試合の最初の一本から身体も心も百パーセントの力で臨むことの大切さを学んだ。気持ちの持ち方で積極的にプレーできたり、足を出してぎりぎりのシャトルを

取れたり、変わってくるということだ。

これらのことは、勉強など、部活動以外においても大切である。支えてくださった先生方、先輩、部活動の仲間、両親に感謝している。これからも感謝の気持ちを持ち、様々なことに全力で取り組んでいきたい。

男子テニス部

(岡 夏帆)

私は、福島東高校に入学し、部活動としてのテニスを通して、技術面よりも、精神面、人間性の面において大きく成長することができたと思っております。

先輩方から多くのことを教えてもらい、目標としていた全国大会へも連れて行っていただき、こういった経験を通して、地区大会の一回戦も勝つことの出来なかった自分が、なんとか県で勝てるようにまでなり、伝統ある東高テニス部の部長を務めさせていたただくようになりました。

また、部活動外でお世話になりましたOBの方々にも深く感謝しております。ただ唯一、全校選抜へ連れて行ってくださった先輩方をインターハイへ連れていくことが出来なかったことが、一生の後悔として残りますが、後輩達へとその夢は託したので、これからも福島東高校テニス部

への応援をよろしくお願いいたします。(角掛未来)

女子テニス部

私たちテニス部は、集大成であるインターハイで団体戦で東北大に出場することができました。これまで支えてくださった先生、保護者の方々にとっても感謝しています。私たちは遠征や練習試合を重ね、時にはレベルの高い学校ともさせていたいただいたおかげで、多くの経験を積むことができました。そこで見つけた自分の課題に集中して取り組み、一人一人が高い目標意識を持って練習に励みました。

日々の練習は辛いときも多くなりましたが、みんなで声を出して部全体で盛り上げながらお互いを高め合っていくことで、人間的にも成長できたと思います。

また、みんなで一つの目標を設定し、それに向かってあきらめずに真摯に取り組むことが今後の自信につながることを学びました。部活動で得られた経験や、身に付けた粘り強い精神をこれからも活かしていきたいと思えます。(柴田夕夏)

サッカー部

私はこのテーマで作文をするということが決まった時、とても困りました。なぜなら書き出

せばきりがなく、原稿用紙一枚に上手くまとめることはできないからです。それほどまでに部活動で学んだことは大きいのです。しかし、強いて挙げるとするならば次の二つです。

一つ目は、「思いを持ち続けること」です。目標を定めた時の志、敗北した時の悔しさ、熱い思いを常に常に持ち続けなければ、真剣勝負はできないと学びました。

二つ目は、「生活の質はサッカーの質」ということです。正直自分はこの意味を本当には理解できていません。きつと真に理解できたらどんな分野でも成功する気がします。故にこれはこれからの課題です。

ただ私が一番に感じていることは東高のサッカー部の全てに対するこれ以上ない感謝です。(大波海晴)

野球部

三年間通して野球部で学んだことは、自分たちは周りの人たちに支えられて現在の自分たちがいるということ。精神面や技術面を教えてくださいださる先生方はもちろんですが、毎日弁当を作ってくれたり道具を買ってくれる両親や時には衝突し合い共にきついトレーニングを乗り越えてきた仲間を支えてもらい

野球を続けてこれました。特に自分たちはいろいろなことがあり先生や先輩方、後輩たちに大変迷惑をかけてしまいました。普通に学校生活を送れること、野球ができたことは決して当たり前のことではないです。だから、これから先、社会に出たときはどんなことに対しても感謝の気持ちを持って行動していきたいと思えます。また、困っている人がいたら率先して助けたいと思います。高校で学んだことを活かして、人に感謝することを忘れずに生活していきたいと思えます。(本多耕大)

男子バスケットボール部

僕は部活動を通してチーム内での協調性がいかに重要か実感しました。自分達のチームには突出して大きな選手はいなかった。攻守においてチーム全員でプレーすることを大事にしていました。しかし、試合中に流れが悪くなると動きが止まることが多く、悪い流れを引きずってしまふことがよくありました。そこでチーム内で練習中から声を出すことを意識し、試合中では話し合い、どこがだめだったのかを明確にするようにしました。徐々にチームとしてナイスプレーが増え、また全員で頑張っ

てきたので達成感もより感じる
ことが出来ました。三年間部活
動に取り組む中で改めて自分達
はたくさんの方々に応援されて
いることを実感しました。そし
て、この伝統のある福島東本
気でバスケットボールに取り組
むことが出来たのは大切な思い
出です。
(阿部 翼)

女子バスケットボール部

私が部活動を通して学んだこ
とは、日々の積み重ねの大切さ
です。バスケットは普段使わない動
きがほとんどで、一回で、でき
るようにはなりません。毎日繰
り返し練習することでやっと身
につくものなので、どんな時で
もさぼらず続けることの大切さ
を学びました。

また、仲間と一つの目標に向
かって努力することの難しさや
大切さも学ぶことができました。
私達は、県大会ベスト4を目標
に日々練習していました。です
が、毎日全員が同じ気持ちでプ
レーすることはなかなか容易で
はなく、怪我人が増えた時期な
どと重なり、チーム全体として
苦しい時期もありました。です
が、そんな時こそみんなで声を
出し、良い雰囲気積極的に作っ
ていきました。そして最後のイ
ンターハイでは、自分たちの思
うような結果は残せませんでした

たが、勝ち負け以上に大事なこ
とを学べたと思います。

(水戸 歩)

山岳部

私たち山岳部は、自分達の弱
点である読図と事前準備に力を
入れて活動してきました。全国
大会出場目指して出場した高体
連では、出場は逃しましたが先
輩方に劣らない最高の結果を残
せたと思います。東北大会では
全国レベルの選手達と競い合う
ことで、自分達に力をさらに分
析することができました。来年
の全国大会は南東北で開催され
る良い機会なので、後輩達には
ぜひ全国を狙って欲しいと思っ
ます。

山での生活を繰り返す中で身
の周りを整理すること、時間を
大切にすることが下界での
の習慣になりました。これらの
ことは普段の生活やテスト勉強
をする上ですごく役に立ちまし
た。特に、受験勉強の計画をう
まく立てられるようになりまし
た。

最後に、御指導下さった村上
先生、菅野先生、星先生に感謝
を申し上げます。

(佐藤周平)

ダンス部

私は部活動を通して、部員一

人一人と向き合うことの大切さ
を学びました。

部長として改めて部員一人一

人一人と向き合うこと、初めて気付く
こともたくさんありました。ダ
ンス部では大人数で躍る機会が
多かったですが、全員が同じ動
きで揃わなければならないとい
うわけではありません。それぞ
れに個性があり、それをどのよ
うに生かすのが重要になりま
す。一人一人と向き合うことで、
部活動とダンスの二つの面で学
ぶことが出来ました。時には部
長としての責任を重く感じるこ
ともありましたが、このような
貴重な経験が出来て本当に良かっ
たと思います。

そして私達ダンス部は校長先
生や顧問仁子先生を始めとする
諸先生方、保護者の皆様のご支
援があったからこそ活動を続け
ていくことが出来ました。本当
にありがとうございました。

(須田涼介)

合唱部

私が三年間部活動を通して学
んだことは、音楽を通しての様々
な人々と出会えたことです。合
唱部に入部したことで出会うこ
とができた先生方や仲間だけ
なく、普段コンクールでお互い
に切磋琢磨し合う他校の人達や
ブルガリアの少年合唱団など様々

な人々と同じステージの上で一
つの音楽を共に作り上げること
で、音楽を通して出会い、交流
できたことが今までにないとい
ても良い経験になりました。

最高学年、部の部長となつた
時にサポートしてくださった先
生方や支えてくださった保護者
の方々たくさんの方々の指導をし
てくださった先輩方、共に頑張るこ
とが出来た同学年の仲間達、つ
いてきてくれた後輩達と部を通
じて出会え、理想とする音楽を
目指して部活動が出来たことは
とても幸せだと改めて感じその
部活動が出来たことはかけがえ
のない経験になりました。

(中村生吹)

科学部

科学部に所属して、改めて
「学び」について考え直す機会
を得ることが出来たという事が
私の三年間に及ぶ部活動に対す
る所見である。

部活動時に私が学んだ事は授
業で扱う教科の延長、或いは外
にあるものであった。それでも、
学習に対して私は、「こんな事
を学んで何の役に立つのか」と
いう誹りの気持ちを抱く時は微
塵もなかった。なぜか。今顧み
れば、やはり「学ぶことの楽し
さ」を感じていたのだらうと思
う。新たな知識を得る時、それ

を使用する時、少し術学的な姿
勢をとる時。そうした学習にま
つわる一挙手一投足に悦してい
た。この感情は学生、しかも今
の年齢でしか味わえないものだ
と思う。大学でも再び「学びの
喜び」に出会うことは多々ある
と思う。しかし、この高校時代
に味わうことの出来た喜びは学
習への原動力として活き続ける
と私は思う。

(渡辺英彦)

書道部

私たち書道部は、三年生四名
という少ない人数ではありまし
たが穴戸先生のご指導のもと頑
張ってきました。

三年生は、二年生の時から全
国高等学校総合文化祭に向けて
作品の練習を始め、夏は県内の
書道部が青少年会館に集まり合
宿を行いました。そこで他の学
校の先生からアドバイスを頂き
より良い作品になるよう充実し
た合宿となりました。結果とし
ては、全国の舞台に行くことは
できませんでしたが、しかし、た
なばた展では、銀河賞に二名入
選し、高校書道展では、全員が
奨励賞に入選するなど人数は少
ない中ではありますが部内で切
磋琢磨し合った結果だと思いま
す。

書道部として字の上達だけで
なく、毎日続けることの重要さ

集中力や精神力も鍛えることができ個々として成長することができたと思います。(鈴木新凌)

美術部

私が美術部で学んだことは、自分で考えることの大切さです。初めは自分の作品に自信がななく、思うような結果を出せず悩みました。ですが部員や周りからの刺激を受け、自分の作品を見つめ直すきっかけとなりました。作品を通して何を伝えたいのか、どうすれば良い作品を描けるのか自分で考え改善することを常に心がけました。一つの作品の中いかに自分が表現したい世界を表現し自分の頭で想い描いた世界を分かりやすく伝えることができるか。自分で考え、最後までやり遂げた時の達成感や成し遂げる喜びを部活を通して味わうことができました。美術部は学年合わせても十人ほどの部活です。学年関係なく仲が良く、互いに刺激を受けて作品制作をしています。部活動で学んだ何事も中途半端にせず、自分で考えて行動する大切さを忘れずにこれからの生活に生かしたいです。(横山愛実)

演劇部

部活動を通して私達演劇部員は、一人一人の役割の大切さ、

そして協力し一つの作品を作り上げることを通して協調性を学びました。人数が少ない分、部員一人にかかる負担は大変重いものでしたが、たとえ自分の仕事でなくても積極的に取り組み、互いにカバーしあうことで様々な困難をのりこえてきました。これは、部活動だけにあてはまることではないと思います。些細なことに気づき、それを実行にうつすことが重要だと思いました。(齋藤裕貴)

吹奏楽部

私は吹奏楽部の活動を通して、常に目標を持ち、それに向かって皆で取り組む姿勢とやり遂げる達成感を学びました。音楽をやるにあたって、第一に個人のスキルアップが必要で、練習の中で自分の弱点を見つけ、一つ一つクリアし、上手くなりたいという気持ちでそれぞれが持っていたと思います。しかし、それ以上に共に音楽を創っているということが大切なのだと思います。お互いに指摘し合い、向上しようとする切磋琢磨するあの雰囲気大好きでした。最後の大会では、東吹部らしい演奏ができたので、本当に達成感でいっぱいです。

部長になってからは辛いこと、苦しいこともたくさんありまし

たが、いつも顧問の先生方や仲間が見ていてくれてすくく助けられました。改めて人の温かさ、支え合う力を感じ、ここでの経験はとても大きなものとなりました。(松尾奈々花)

写真部

写真部の活動を通して学んだことは、撮影の技術に加えて、写真の奥深さです。入部した当時は、撮影の技術は一切知らない状態でした。技術を初めて学びきっかけとなったのは夏に行われた講習会でした。フィールドワークを行いながら講師の先生方から多くの技術を学びました。そして学んだ技術を使い写真を撮っていくうちに写真を撮ることの楽しさに気づき、写真の奥深さにも気づくようになりました。同じ撮影物でも撮り方を変えるだけで写真が伝えるものが変化する。写真を撮るたびに撮影物の新たな側面を発見できる。同じ写真が二度と撮れず、何度も撮影を繰り返すことで素晴らしい作品を生み出すことができる。写真部での三年間で写真の素晴らしさを多くの方々に教えていただいたことを忘れず、たとく、写真の楽しさを追求したいと思っています。(高橋広夢)

英語部

私が英語部に入部して学んだことは、たとえ間違つたとしても、自分の意見を英語で伝えることを恐れないということ。直すべきところは、先生の指摘して下さったり、英語のDVD観賞を通して少しずつ耳が英語に慣れていきました。そのおかげで、研修としてフリティッシュ・ヒルズへ行つた時にはスタッフの方の英語を聞き取り、理解することが出来ました。普段学校では文法や長文の学習をしていましたが、それだけが英語を学ぶということではないのだなと感じたと共に、語学に対してより興味を持つようになりました。

現在、私は国際系の学びができる大学を目指しています。英語部で学んだことを活かし、自分の視野を広げていきたいと思っています。(長谷部咲子)

放送委員会

放送委員会の活動を通してゼ口から何かを作ることの楽しさと番組の作成の難しさを知りました。一人で作るのではなく、メンバー全員で案を出しあい、満足のいく形に仕上げることで協力の大切さも学びました。また、技術面でも、カメラの使い

方、音声と動画の編集の仕方など実用的なことも学びましたができました。普段何気なく見ている番組が様々な人の協力と努力によって放送されていることを意識して、委員会の活動で学んだことをいかして生活していきたいと思っています。(齋藤裕貴)

応援団

応援団としての生活を今振り返り、多くの方々の支えがあったことに気付きます。その支えがあったからこそ、応援団として活動することができたのです。また、多くの出会いのなかで、たくさんの絆が生まれることを実感しました。団員とは勿論、選手との間にも大きなものを感じました。それは、最後まで共に闘った私の中で大きな財産です。私がこれまでしてきた「応援」というものは、形として残るわけではないですが、試合を重ねることに、自分自身を成長させ、賞状やトロフィーよりも大きなものを手に入れることができたと思います。

周囲への感謝、大切な出会い、一つの組織の長としての責任、様々なことを私に気付かせてくれたこの応援団で活動できたことを、誇りに思い、今後も成長できれば良いと思います。

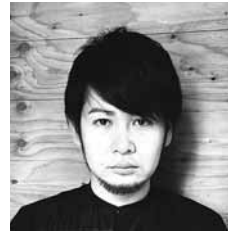
(加藤 柊)

福島東高校の卒業生から学ぶ

自分をデザイン

することの面白さ

アサノコウタ(二十期生)



将来の夢は?という質問をし
てみると、多くの学生は「
になりたいです。」と職業を答
えることが多いかと思えます。
私自身も高校時代を思い返すと
「建築家になる。」と宣言してい
ました。確固たる職業への憧れ
はもちろん素晴らしいと思いま
すが、当時に比べて現代の社会
では職業という括りではない人
生の選択、仕事の仕方、夢のか
たちが存在していると思います。
それはSNSや多種多様なメデイ
アによって個人による発信が容
易にできるようになり、収益を
得る方法も会社に所属してお給
料を貰うだけではなく、勤務時
間も個々人で選択できるように
なってきたおり、様々なライフ
スタイルを選択できるようになっ
ているからです。私自身、「こ

職業は?」と尋ねられるとしば
しば返答に困ることもあります。
建築家、デザイナー、アーティ
スト、大学講師、ラジオパーソ
ナリティ、復興活動、イベント
企画、等々、その全てが私自身
の活動です。「二兎を追う者は
一兎をも得ず」ということわざ
がありますが、これからの社会
では「十兎を追い続けてみる」
ことで人生を豊かにしてくれる
可能性がります。または「二
足の草鞋を履く」のではなく
「十足の草鞋を履く」という人
生も可能となります。もちろん、
そのような人生を選択するには
様々な問題も解決していかなく
ればならないでしょう。多くの
挫折を経験することにもなると
思います。ですが、そういった
経験を積み重ねることで自分自
身をデザインしていくことができ
るはずですよ。デザインと聞く
と専門的なイメージを持たれる
かもしれませんが、そのような
ことはありません。理想をかた
ちづくること、それがデザイン
です。自分自身が思い描く「理
想の自分」をイメージすること
で、五年後や十年後、二十年後
の自分に期待すること、それが

将来の夢となりますし、そのと
きイメージするものはひとつの
職業に固執せず、自分自身の可
能性を信じて多くのことに挑戦
すべきです。失敗は誰にでもあ
ります。そして、失敗を繰り返
すことで理想に近づきます。私
は「十人十色」という言葉が大
好きです。東高生のみなさん
は、自分自身の色を沢山探して
もらい、単色ではないカラフル
(多色)な人生を楽しんでもら
いたいのです。

平成28年度 教育実習生 (同窓生のみ)

氏名	実習教科	期生	氏名	実習教科	期生
佐久間桃子	保健体育	31期	吉田友和	保健体育	31期
菅野雄太	数 学	31期	菅野 巧	現代社会	31期
加藤本気	数 学	31期	落合将平	世界史	31期
三浦依莉	英 語	30期	安藤公誉	数 学	27期
小野潤也	保健体育	31期	三瓶 凜	美 術	32期
高橋拓也	化 学	31期	西村璃紗	音 楽	29期
霜山和紗	地 理	31期	菅野光太郎	保健体育	30期

転任者の言葉

東高の桜木を見て

国語科 氏家 清和

昨年四月に福島東高校に転勤
してきました。四月一日に校門
をくぐり、広い駐車場に車を止
めて、玄関をくぐりました。私
にとっては四度目の転勤で、五
番目に勤務する学校です。今ま
での経験から、赴任日の最初の
日の朝は、生徒も教員もちらほ
らいるだけで閑散としているも
のと思っていました。しかし、東
高校は違っていました。生徒は
試験を受けていました。職員室
もほとんどの先生が出動してお
り、活気ある雰囲気でした。噂
には聞いていましたが、年度初
日の日から福島東高校はアクセ
ル全開で動いていました。さす
が東高校と思うと同時に、定年
まで残り数年を残す身にとって
はこれは大変なところに来てし
まったというのが、東高校の初
日の感想でした。

今から二十年前くらい前に私が
県南のある高校に勤務していた
時、先進校訪問ということで、
盛岡市内の県立高校に視察に行
きました。そこでその高校の担
当者が開口一番に行ったことは
「どうして盛岡まで来るんです
か。近くに福島東高校があるで

はありませんか。うちは手本に
はなりませんよ。」と。福島東
高校の評判はかなり以前から県
外にも鳴り響いていました。そ
の言葉が頭の中にこびりつき、
一度は勤務してみたい高校の一
つでした。

赴任してすぐに、校歌にも歌
われている桜木の花が美しく咲
きました。グラウンドにある桜
木は、立派なものが多く、福島
大学がこの地にあつた時からの
もあると聞きました。多くの若
者の姿を見つめてきた桜木であ
ると思うと感慨深いものがあり
ます。今、世の中は大きく変わ
りつつあり、社会構造や入試制
度も変わるうとしています。福
島東高校もその大きな変化の中
にあり、今まで通りのやり方で
は時代に取り残されるのは確実
です。年々歳々、変わることもな
く花を咲かせてきた桜木が見て
も恥ずかしいように、大き
きな夢を胸に抱いた若者を育て
ていきたいと考えている今日こ
の頃です。



編集後記

今回の福島東高校同窓会会報第十三号発行にあたり、同窓会会長様をはじめ皆様方にはご多用のところ、原稿や資料を御寄稿頂き厚く御礼申し上げます。

今年度は、三年間に渡って行われた本校舎の大規模改修工事が七月に終了し、二学期からは本校舎がすべて使えるようになりました。配置の変わった図書館や進路指導室、木のぬくもりを感じる教室や新しい廊下や壁に、毎日新鮮な気持ちで学校生活を送っています。また、新しい教室の後方には生徒用ロッカーが配置されました。そつです、あの「後ろの黒板」がなくなっただです。その様子を見て、数

平成28年度 転出者

職名	氏名	転出先
校長	本多光弥	退職
事務長	石川秀司	退職
主査	玉木文夫	退職
教諭	岡崎鏡子	退職
教諭	鈴木浩一	退職
教諭	田中寿彦	退職
教諭	二階堂剛	教育センター
教諭	宮島 径	郡山萌世高(通)
教諭	草野智教	磐城高
教諭	小寺智仁	湯本高
教諭	鈴木清文	福島北高
常勤講師	阿部 隆	退職
常勤講師	中村由紀子	退職(継続)
常勤講師	佐藤英嗣	退職(本宮高へ)
常勤講師	宗像佑磨	退職(継続)
養護教諭(期付)	萩原香澄	退職(石川養へ)
月手当非常勤講師	渡部亜耶	退職(継続)
時間講師	菅野智晶	退職(継続)
ポイラー技師兼校務員(非)	加賀美静男	退職

平成28年度 転入者

職名	氏名	前勤務先	教科
校長	吉田豊彦	いわき総合高	理科
事務長	丹野信介	原町高	
副主査	篠崎 篤	土木総室	(17期生)
教諭	氏家清和	保原高	国語
教諭	木村翔太郎	湖南高	理科
教諭	菅野俊樹	安積黎明高	理科(14期生)
教諭	遠藤俊太郎	相馬農業高	理科
教諭	阿部秀男	福島商業高	保健体育
教諭	佐藤裕隆	福島工業高	保健体育
教諭	齋藤克幸	相馬農業高	保健体育(10期生)
教諭	クームズ茂子	(職務復帰)	英語
養護教諭	伊澤佳子	(職務復帰)	
(再)教諭	力丸 繁	川俣高	地歴公民
常勤講師	佐久間優介	(継続)	公民
常勤講師	中村由紀子	(継続)	数学・情報
常勤講師	宗像佑磨	(継続)	理科
月手当非常勤講師	渡部亜耶	(継続)	英語
時間講師	菅野智晶	(継続)	数学
ポイラー技師兼校務員(非)	佐藤 茂夫		

学の時間に途中から机・椅子ごと後ろを向いて授業を受けた高校時代を懐かしく思い出しました。

さて私事ですが、今年度は二人の同窓生の活躍に大きな刺激を受けました。一人は五月十九日にエベレストの登頂に成功したなずびさん(十二期生)、もう一人はリオデジャネイロ・パラリンピックで銀メダルを獲得したボッチャ日本代表ヘッドコーチの村上光輝さん(十一期生)です。

なずびさんは二〇一三年、東日本大震災で被災した故郷・福島県の復活と再生を祈願しエベレスト登山に挑戦、五月二十日に登頂への最終アタックを行うも、山頂まであと一〇〇メートルの地点で無念の撤退となり、登頂はなりませんでした。二〇一四年にもエベレストに再挑戦するも、大規模な雪崩発生によりシエルバが登山をボイコットしたため登頂を断念。二〇一五年に三度目のエベレスト登頂に挑みますが、四月二十五日に発生した大地震と、ベースキャンプで起きた氷河崩落事故の影響で断念。そして二〇一六年五月十九日、四度目の挑戦にして遂に登頂に成功しました。



先日二月九日には本校で特別講演会「ふるさと福島への想い」

と願います。なずびさんの応援の形として頂き、「ご自身の経験を通して得られた努力することの大切さを在校生へ伝えて頂きました。」

村上さんは大学時代まではサッカーの選手でした。大学卒業後、教員となり知的障害者サッカーなどに携わる中でボッチャに出会い、二〇〇九年にはアジア・南太平洋大会でコーチを任せられ、ペア四位に導きました。前回のロンドン・パラリンピック大会からは、ヘッドコーチに就任。

昨年四月には、リオに向け指導者として専念するため、勤めていた福島県内の特別支援学校を退職、仙台大学大学院に進学しました。そして今回のリオデジャネイロ・パラリンピックで、銀

メダル獲得に導きました。



お二方もそこに至るまで並々ならぬ苦労や困難があつたに違いありません。ひたむきなその情熱、行動力、チャレンジ精神にただただ頭の下がる思いでいっぱいです。お二人の活躍は同年代の同窓生として誇りに思うとともに、四十代になり忘れてかけていた熱いものを思い出させてくれる大きな刺激となりました。

在校生にも高校生活のなかで文武両道に本気で取り組むことで、進路目標達成、部活動目標達成することのほかに、社会で活躍できる行動力、精神力、人間性を身に付けてほしいと思っ

ています。年代は違っても、教室後方の黒板はなくなっても、同じ校舎で学んだ東高生として今後の活躍を祈念しています。

最後になりましたが同窓生の皆様方におかれましては、今後とも本校の教育活動にご支援くださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

(十二期生 菅野 真幸)